

「デジ道（仮）」文書制作の コンセプト公表について（2021年デジタルの日関連）

デジタル庁

「デジ道（仮）」について

日々をよりよく暮らしていくことができるように、個々人や組織はどのようにデジタル技術を活用していくとよいのか。その考え方を「道（＝デジ道（仮）」と見立て、一人ひとりのデジタル活用、またその延長にある人に優しいデジタル社会の実現に向け、その未来の理解・実践の手助けとなるような「デジ道（仮）」のこことばを制作します。

「デジ道（仮）」のこことばは、

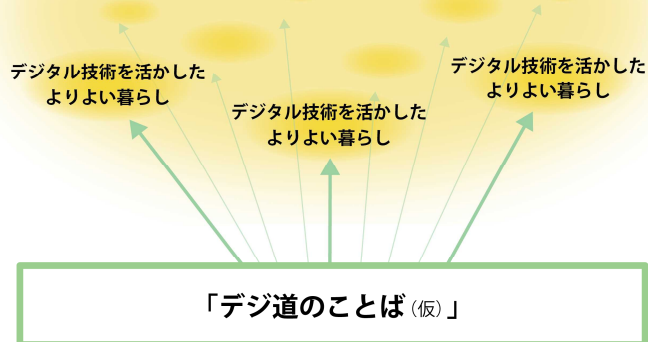
- デジタル社会の形成のため、デジタル改革への国民の理解を深める
- 国民個人がデジタル改革の取組に親近感を抱くとともに、自ら参画することを促進する

という政府の実施するデジタル改革の取組の広報を担うものであり、今後望まれるデジタル社会の形成に向けた社会的活動の共通言語として用いることができるようになることを目指しています。

その「こことば」は、実践知の共有方法として教育・福祉、建築・まちづくり、ソフトウェア開発等の分野で活用されているパターン・ランゲージ（*）にて制作します。

(*）パターン・ランゲージとは、有識者・実践者にインタビュー実施の上、その知見等からエッセンスを抽出し、わかりやすい「こことば」として文書化したもの。

誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化による
一人ひとりの多様な幸せを実現するデジタル社会



「デジ道（仮）」のことばで、目指すこと



【目指したい社会のイメージ共有】

これからみんなで目指していききたい「人に優しいデジタル社会」とはどのようなものなのか、またそのために何をすればよいのかを捉えやすく。



【対話の場をつくる】

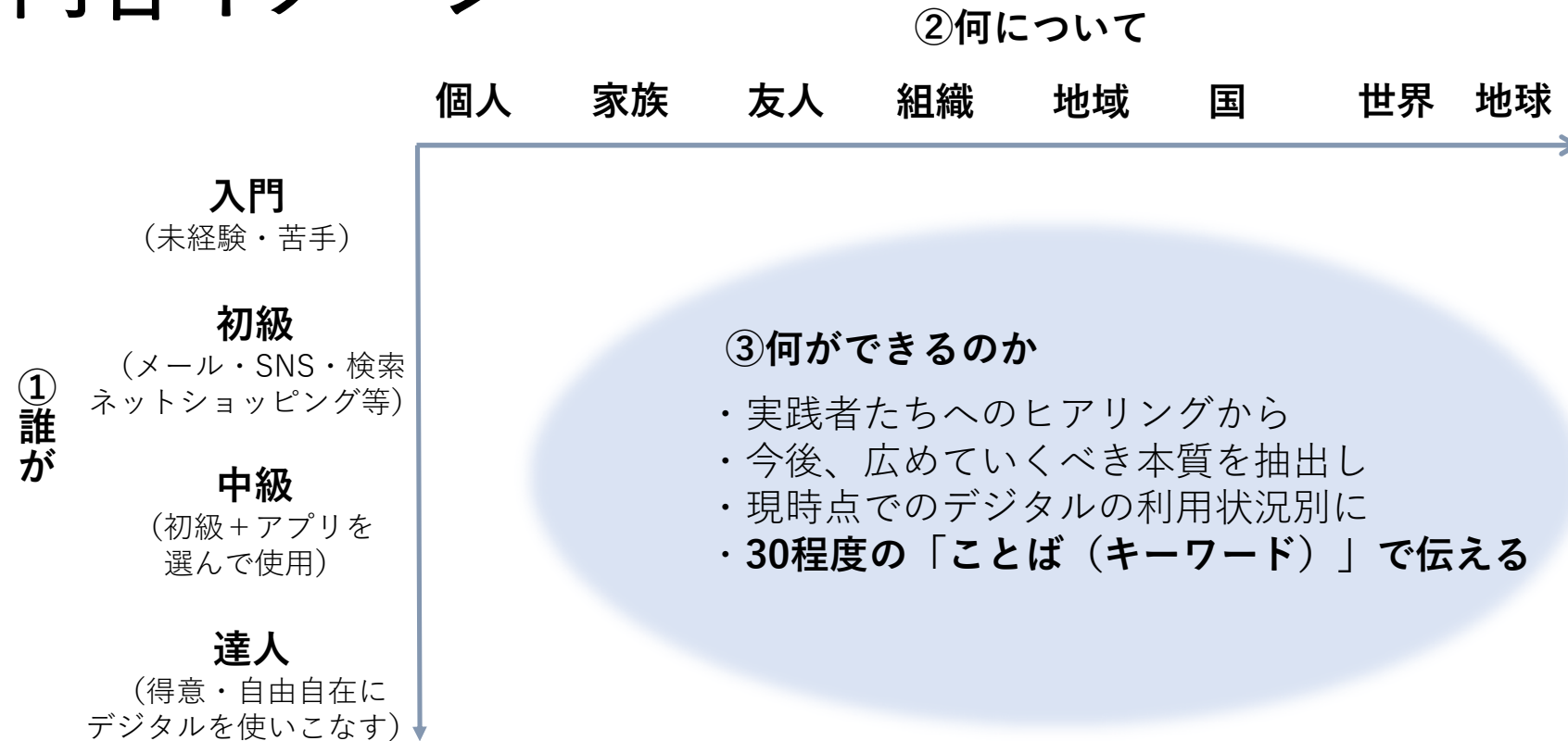
自分たちがどういったことができるかを、学校・組織・家庭等で話すことが容易にできるように。



【一人ひとりのデジタル活用の手助け】

自分の生活のなかで、また各人の仕事等の中で、デジタル技術を活用してよりよい日々をつくっていくためのヒントを見つけやすく。

内容イメージ



これらのコツを抽出できるよう、
様々な分野・領域での実践者にインタビューを行い、制作を進めていく予定です。